



ずっと暮らし続けたいと思う農村の未来を考えよう！

里山未来 ユースワークショップ

2021 レポート

新潟県内から 20 名の高校生・大学生が参加した
ユースワークショップのハイライトを報告します。

里山未来ユース ワークショップの目的

わたしたち人間の暮らしは、自然の恵みによって支えられてきました。そのことを実感できる場所が、里山と呼ばれる環境です。

衣食住、暮らしのあらゆる場面で、人は里山の自然を生かしてきました。資源を使い尽くすことがないよう、さまざまなルールや慣習を定めて、大切に活用してきました。

しかし、近代化とともにわたしたちのライフスタイルは大きく変化します。世界のあらゆる地域の資源を活用できるようにした一方で、身近な自然との深いつながりが希薄になり、里山の記憶は徐々に失われていきました。日本の至るところで、山や田畑の荒廃が深刻化しています。

里山の環境が危機的状況にある……そのことを、わたしたちはしっかりと学び、状況を変えていくために何ができるかを次世代とともに考えていきたい、そのような思いから里山未来ユースワークショップを企画しました。

ワークショップでは、高校生と大学生が、佐渡島を舞台に農村の課題について学び、それぞれの関心や感性を生かして課題解決のアイデアを探究しました。ワークショップでは、3つの目標を定めました。

- 農村のリアルな課題やニーズについて地域のひととの声をもとに理解を深めること。
- アイデアを探究する楽しさ、そして難しさを体験し、そのスキルを習得すること。

● 里山をキーワードに島内外の異なる世代の人びとがつながるきっかけを作ること。

コロナ禍で、フィールド調査さえもオンラインでの実施となり、参加した高校生と大学生は、限られた時間と経験のなかで課題解決の可能性を模索しました。地域の声はしっかりと彼らの心に残り、里山の未来を考え始める、そして考え続けるきっかけとなりました。

里山未来ユースワークショップで高校生と大学生が考えたさまざまなアイデアは、GIANS（世界農業遺産）認定10周年記念フォーラム佐渡の一環として開催された「里山未来ユースサミット」で発表されました。その結果、地域内外の企業なども巻き込みながら、コラボレーションの種が少しずつ芽を出し始めています。

プログラム

2021.8.16

フィールド調査

佐渡島で農業や地域ビジネスに挑戦している人びと15名をゲストに迎え、オンラインでインタビューを実施しました。印象に残ったことを整理し、どんな課題解決に取り組んでみたいかを考えました。

2021.8.17

アイデアのインスピレーションを探る

「もう暮らしたくないと思う農村とは？」ワースト・ケース・シナリオのアイスブレイクから始め、「ずっと暮らし続けたいと思う農村の未来」についてキーワードを出し合い、イメージを膨らませました。他の参加者との意見交換を通して、自分の関心を掘り下げ、企画書の骨組みを描きました。

2021.8.18

事例調査と提案のブラッシュアップ

アイデアの構想を深めていくために、佐渡島内や他地域の事例を調べて参考情報を収集するとともに、3～4人のグループでお互いの提案を吟味しながら、各提案の特徴やウリを改めて考えていきました。

2021.8.19

地域関係者へのプレゼンテーション

プレゼンテーションをブラッシュアップし、地域の方々に招いてオンライン発表会を行いました。3日間という短い期間で、かつ全てオンラインでの実施という限られた経験の中で、それぞれの参加者が感性を生かした提案をまとめてくれました。

2021.10.30

里山未来ユースサミット

あいぼーと佐渡を会場にオンラインとのハイブリッドで実施したユースサミットでは、7つの提案が発表されました。島内外の企業も審査員として参加し、若者のアイデアを社会実装につなげる提案を考えていただきました。

ユース サミットで 発表した アイデアを紹介



「癒しと恵みの島」リラクゼーション

佐渡高等学校 中村心香

日本人の多くは「癒し」を求めています。佐渡のパワースポットめぐり、「癒しと恵みの島」を体感できる観光ツアー開発を提案します。佐渡の自然、神社仏閣を舞台に、瞑想やアーシングの体験を展開することで、ヨガに関心のある若者やマインドフルネスを重視する企業などが佐渡に惹きつけられ、新しい観光の可能性が拓かれていくと考えます。

体験プログラム

～佐渡移住者を増やすために何ができるか～

新潟大学 中田七生

農村地域への移住者を増やすためには、長期の体験プログラムが有効ではないでしょうか？1年を通してさまざまな生業を体験できるマルチワーカープログラムをつくり、佐渡で暮らす具体的なイメージをもってもらうとともに、四季折々の島の魅力を体感してもらうきっかけをつくることができれば、移住の可能性が広がると考えます。



農村住民に自分の住む農村の魅力を再発見してもらおう！！

～住民に向けた新たなプログラムの提案～

新潟食料農業大学 加藤梨奈

農村の人口が減少しているということは、そこで暮らす人びとが地域の魅力を十分に気づいていないということではないでしょうか？住民が地域のよさを発見し、掘り下げる一つのきっかけとして、集落が作る地域プロモーションビデオづくりを提案します。地域をよく知る年配者とデジタルデバイスを得意とする若者がチームを作り、映像を制作します。楽しみながら、地域に対する誇りを再発見することに繋がればと思いました。



農村社会の新しい生活様式の実現に向けて「移動販売車」を提案します

新潟大学 曾我京佑

お年寄りから子どもまで、あらゆる世代にとって便利で安心な「買い物サービス」を考えたいと思いました。デジタル技術を活用して、生活に必要なものを全て揃えた「移動販売車」を作ることができれば、生活基盤の充実につながります。今までの買い物の概念を変えるチャレンジをしてみたいと考えました。



佐渡食材で作る学生農業カフェ

佐渡総合高等学校 宇治明日美・濱野里桜

若者は農業への関心が低いと思います。どうしたら興味をもってもらえるか、高校で農業を学ぶ私たちが考えたのは高校生が栽培した野菜や果実を使ったジェラートの開発と、高校生が運営する農業カフェの提案です。心が落ち着く空間で、高校生と地域の人びとが語り合う場にもなればと考えました。



農村人口の減少と空き家の今後

佐渡総合高等学校 木下元輝・江川圭太・岩崎湧豊

人口減少が進む佐渡島では、空き家の問題が深刻になっています。空き家は地域の安全や景観の問題ともつながっていて、暮らしやすい農村が損なわれる要因にもなります。持ち主の自己負担が無しに空き家を活用するリノベーションプロジェクトができないかと考えました。宿泊可能な場所が増えていくことで、交流人口の増加にも繋がると考えます。

島民が繋がる観光サイト「佐渡@トラベル」

長岡造形大学 三井琳世

情報発信をしても届かないという悩みを聞きました。そこで、佐渡の多彩な観光プランを集約し、一つのサイトから予約できるしくみができないか考えました。さらに、新たな観光プランの開発のために、島でさまざまな取り組みをしている住民がコラボレーションできる機能が加わると、観光を軸に島民同士のコミュニティ形成につながるかもしれません。佐渡全体で人びとがつながり、コラボし、共に情報発信することで、さまざまな価値が一元的に可視化されていくはずです。



ワークショップ参加者の感想

4日間のワークショップはあっという間でした。短期間でしたが、アイデアを考えるために必要な基本内容が凝縮されていて、自分のスキルアップにも繋がる内容だと感じました。

ワークショップを通して、さまざまな方のお話や意見を聞かせていただくなかで、どのようにして農村を活性化させていきたいかという自分の考えを形にすることができました。形にしたものをより高めていくことにも繋がり、自分の言葉で人に伝えるととてもいい経験となりました。

学生スタッフの皆さんのおかげで、グループワークがとてもやりやすかったです。自分が考えたアイデアについて、大学の先生からアドバイスをいただき、また地域おこし協力隊の方やゲスト農家の方から実体験を踏まえた現場の声を聞くことができたので、とても参考になりました。

大人も一緒に探究するコミュニティをつくりたい！

若者たちが考えたアイデアをどのように地域社会に生かしていくことができるか、アイデア実現に向けた可能性と一緒に考えていくことが、大切な大人の役割だと考えます。ワークショップで重視したことの一つは「大人のインボルブメント」です。若者のアイデアをさまざまな立場の人が繋がりあって実現に向けた道筋を考えていく「共創のコミュニティ」を形成することを目指しました。一つの試みとして、企業や地域住民に審査員という形で参加してもらい、ただ評価するだけではなく、コラボレーションの可能性を検討してもらいました。その結果、サミット終了後に、島内外の企業と高校生・大学生の共創の芽が生まれています。ユースのアイデアから世代や地域の境界を超えたプロジェクトを展開することで、里山の課題を共に考えるコミュニティが広がり、未来の可能性が膨らんでいくと確信しています。

里山の未来を考えるつながりの発展



ワークショップ企画チーム

豊田光世・北愛子 (新潟大学佐渡自然共生科学センター)
五十嵐麻湖 (佐渡市農業政策課)
小野義直 (株式会社アンド)
中村洸葵・飯森翔太郎・片岡沙良 (大学生スタッフ)

内容に関するお問い合わせ

新潟大学 佐渡自然共生科学センター コミュニティデザイン室
✉ community-design@cc.niigata-u.ac.jp

発行日 | 2022年2月25日

発行者 | 新潟大学 佐渡自然共生科学センター コミュニティデザイン室、佐渡市

本事業は環境省「環境で地方を元気にする地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業」の助成を受けて実施しました。

